

川棚町観光施設運営あり方検討委員会（第3回）会議

日 時 令和4年6月7日（火）
13時30分～
場 所 川棚町役場2階大会議室A

（次 第）

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 答申の作成方針について
- 4 観光施設の運営のあり方について
- 5 次回委員会の開催日程について
- 6 その他
- 7 閉 会

【委員会概要】

（事務局から）

- ・第2回委員会までに出された意見の集約
- ・答申の作成方針及び今後の観光施設の運営のあり方について、事前意見集約結果の報告

（委員からの意見等）

- ・大崎の観光施設を収益が見込める「収益施設」と管理を中心とする「管理施設」に分類し、民間事業者による運用を行うことで、「収益施設」における集客が「管理施設」に対しても相乗効果生まれるのではないかと。
- ・施設を利用するユーザーが町民なのか観光客なのかははっきりしていないのではないかと。
- ・K P I の設定が明確でないため、大崎半島全域の方向性がはっきりしないのではないかと。
- ・長崎県民、川棚町民の財産として、大崎半島内の各施設は町の観光施設として維持してほしいが、今後の維持管理のためにも、町としての観光のビジョン、施設の活用のビジョン、管理する事業者への目標設定が必要ではないかと。
- ・各施設の特性に合った専門事業者に委ねることで、各施設の活用の幅が広がる

のではないか。

- くじゃく荘を現在の観光客のニーズに沿った形でリニューアルを行い、サービスを拡充し、大崎半島観光の核にする方法もあるのではないか。
- 町民が誇れる施設として、町民のニーズを把握し、利用を促すための取り組みが必要ではないか。
- 近年は、観光保全などのSDGsの取り組みや町づくりと観光が一体となった取り組みにより、施設の活用の多様化や交流人口の増加につながっている取り組みが多くなっている、大崎半島もそういった視点で検討する必要があるのではないか。